慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	消費経済思想史概観
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1943
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.37, No.9 (1943. 9) ,p.781(1)- 826(46)
JaLC DOI	10.14991/001.19430901-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19430901-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

冰 H 辯 編











選科二〇錢 B6三八四頁

區芝都京東

それ故に、本書とそ今日の學生青年層の希求が何にあるから率直に表明すると共に、 げて行く學問こそ「生きた學問」である。時代の發展は學世矽労々リ智に*** 分野に如何なる對象が研究題目となり、それが如何に採り上げられてゐるか、 門の教授に執筆を求めたものが本書である。本書はもと慶大學生の企圖に出でたるもの、 代の發展は學問研究の具體的對象及び領域を變する。 一般學生の讀書の要求に應じ得べしと信ずるも 前古未曾有の歴史的時代に於て學問の各 のである。 乃ち時代に觸れつく自己生長を遂 それぞれ専

目 論(小高泰雄) 法における人間 ……世界戰と世界觀(大江精志郎歴史社會學の意義(新明玉道)…根源的現實(伊藤吉之助)……ド 精志即) バークのファ 理論(菊地勇夫)1クの再吟味(潮のファシズム(米 ····經營組織 (米川正夫) (米川正夫)

ひろ 耐版出應 九一七二(45)田三話電 O八一八五一京泉替振

田學會雜誌

費經

投費を規制するの法規並びに奢侈を戒むる聖賢の訓誡が存して居つたととは消費の標準が早投費を規制するの法規並びに奢侈を戒むる聖賢の訓誡が存して居つたととは消費の標準が早 を惹起しつくありし事質を物語るものがある。 に闘するが、而も消費の問題は政治的及び倫理的統制の見地よりして夙に考察の對象となつて居つた。古來人民の 然しながら、社會科學たる經濟學は社會的であるよりも堕ろ個人的である消費其の者よりも、斯くの如き終結に導然しながら、社會科學たる經濟學は社會的であるよりも堕ろ個人的である消費其の者よりも、斯くの如き終結に導 く社會段階を多く取り扱つて來た。從つて消費經濟理論に關する關心が喚起せられたのは比較的新しい時代のよと 言はれてゐる。 間的研究を構成するものとも種世られてゐる。 消費は生産の相對物でをり、 經濟學は生産及び消費に關する二大研究に分たる可きものであり、分配及び交換は是れ等兩者の中 洵に消費はあらゆる經濟行爲の終局若しくは目的點と看做された。 流通及び分配が幹であるならば、消費は其の上端であると ンで公共の注意

地位を永遠に確保せんことを期し、 素を命ぜられ、 上唯り貴金屬貨幣の鑄造が禁止せられて居つたのみならず、其の流通すらも抑制せられて居つたが爲めにあらゆる ること、なつた。彼れ等は全然同様の訓練を受け、同様の衣服を着し、同様の生活を行った。彼れ等は其の生活の 標準を一定した。市民権は、土地の收益を以つで生活し、自己の全力を擧げて公務に奉仕するを得る者の上に存す 以上の精巧なる道具を以つて造られた家屋及び家具を有することを禁止せられ、男子は特に食料及び衣料の單純質 八頁参照)。プルータルホスの擧示してゐるリュクウルゴスの四布告(レトライ)の一によつて、スパルタ人は斧と鋸 標準を高めることが出來す、又斯くの如き社會主義的國家に在つては富は權力を意味することを得なかつたが故に、 構の創造の爲めに故らに懷性たらしめんとした時、彼れ等は全住民の十分の一を超ゆることのない市民團體の生活 Sanitate, 12; Lycurg.13.)° **餘分の富は殆んど何等重要なる意義をも有せざるものであつた。土地は、慣習上、譲渡し得ざるものであり、又法律** 、家族生活、自由なる外國との交際、文明の快樂及び洗練並びにあらゆる文化の要素をすら峻嚴なる軍國主義的機 の資産集積は防止せられ、富は其の増殖を停止したのである。(昭和四年版抽著『經濟學前史』一一二及び二二六十 料理人は總べて鹽及び酢以外の如何なる調味料をも使用することが出來なかつた。(Plutarchus, De メッセニア人の叛起を鎭壓し、其の國土の住民の九割をヘローグェの境涯に陷らしめ、之れに對し 後世が傳説的立法者リュクウルゴスの名によつて呼ぶ「秩序」即ちエウノミアによつて其の現在の あらゆる個人の利益を全市民團體の其れに從屬せしめ、藝術、文學、富、個人的自

然しながら、人民の投費を制限し規制するの法規は、 概して、 風俗、 習慣及び生活狀態が著しい變化を遂げつく

存して居つた。葬儀は費用大なる虚飾を避く可きであり、又ゝ公の儀式に使用せらるゝ動物に對する價格が定めら せんとするに際し、富の濫用を抑制せんことを企圖せるものであらう。 Demosthenes, in Macart., 1070.). 改正したソローンの法制中には、猹澤なる婦人の衣裳及び装飾品を禁止し、殊に新婦は其の良人に與へらるゝ嫁資 れた。又、アテナイに於いては、 に加へて禮服三着及び一定の瑣末なる裝具類以上に其の一身の裝飾品を持參することを得ざる旨を規定せるものが 429:)。又衣裳の單純と從者敷の制限をも命じたと言はれてゐる。凡を西紀前五百九十四年の頃にアテナイの憲法を 六十年に成つたものと看做されてゐる伊太利亞の希臘都市ロクロイ・エピジェヒュリオイの立法者ジェレウコスの 法制は、市民が醫師の命令に依るの外、水の割られてない葡萄酒を飲むることを死刑を以つて禁止し、(Athenæus, ある際に發せられ、古來の樣式及び方法より背離するを国正せんことを企圖するものが多かつた。凡そ西紀前六百 饗宴に於ける賓客の數を制限するの法規が行はれて居つた。(Athen, vi. 245; 是れ等立法者等は氏族制度崩壞の時代に於いて財産が家系に代つて社會を支配

は常に全海軍に費さるこよりも大なる財寳を祝祭の爲めに投じた。又、 爲めに共同軍資金の中から「人宛三オポロスを分配することくした。デモステネスの時代に於いては、アテナイ人 せられて一般人民に對して無料を以つて提供せられた。ペリクレスはアテナイの貧民をして演劇を觀覽せしめるが を挟養す可きものであると云ふ 思想を 抱懐するに至つた。而してアテナイの 政治家は、各個人の 勤倹に依るより 居つた。是に至つて「國家的奢侈」とも稱す可きものが行はれるやうになつた。無數の祝祭、演抜及び饗宴は擧行 アラナイに於いては、民主々義的影響が次第に顯著となり行くに連れ、民衆は無爲懒惰に慣れて、國家は彼れ等 等る公收入に依つて多數民衆を支持し、之れを富裕ならしめ、之れに歡樂を與ふ可き方法を發見しようと努め 此の時代に於いては、 エウリビデスの悲劇

消費經濟思想史概觀

623; Petit Legg. Att., 385.)° は龔時の波斯戰役よりも人民に取つて高價となつた。百〇七オリュンピアス第三年には演劇基金を軍事的目的に振 向けることを死刑を以つて禁止するの法律が通過せしめられた。(Plutarch., De gloria Athen., 348; Athen., xiv

總べての願望からの解放であつた。彼れは野蠻及び未開民族の生活を理想化 吾人は絶えず不慮の苦痛と損害とに逢着する傾向がある。 生きることが出來たならば、それは理想的の生活であらう。 快樂を意味する。吾人にして感官と心意とが收受することの出來る最も充分なる歡喜を享有して、 と文明とを以つて總べての不正、奢侈及び敗壞の根原であると宣言した。彼れは絕對の必要物に自己を制限するに 而して、彼れの所謂快樂は最も具體的なる形態に於けるものであつて、斯くて先づ第一に强烈の程度大なる肉體的 中に於いて自然の狀態に於いて生活し、野蠻人の生涯を送らんことを努めた。然るに、キレネ學派の始祖アリスチ 由つて贏ち得たる其の「富」を誇つた。彼れの弟子デイオゲネスに至つては全く乞食の生涯に入り、文明社會の真唯 派の流れはストア學派に傳はり、 たらしめることのない賢人のみが唯り質に永く幸福たり得るものであると説かなけれ ボスに從へば、 古代希臘の思想界には、奢侈を以つて、一は非難す可きるのと觀、他は有利と做す二流れの思想が對立するに至 ニイク學派の始祖アンチステネスに取つては、人間至高の目的は有徳なる生活であり、 人生の目的は快楽であり、徳は單に快樂の産出に資する限りに於いてのみ望ましい 後者に於いては、そは感情の生活に在るの根本的相違は存してゐるが、 キレネ學派は其の後繼者をエピクロスに於いて看出した。 是に於いて乎、 然しながら、吾人の誠實なる快楽の追求に在つては、 彼れの徒は、自己をして其の欲情の俘虜 自然の狀態を讃美し、 ばならなかつた。キニイク學 前者に在つては、幸福 而して徳の理想は 刹那から刹那に ものである。 都市的生活

義氣及び勇氣を注入する主要なる手段であると宣言した。彼れを以つて觀れば、奢侈に勵まされてアテナイ人はマ た。(Athen, iv, 163.)。 其の商業的發展の時代に於いて、 然に從へる生活が之れを實現する唯一の手段大ることを主張するに於いて一致するものであつた。然しながら シに於いて勝利を得たのである。('Athen: xii, 512.)。 其の節制及び質素が交易を阻害するの故を以つて、不良なる市民として非難せらるこの傾向があつ プラトーン及びアリストテレースの弟子ポントスのヘラクレイデスは奢侈を以つて人間に 大資産が少數者の手中に蓄積せらるくに至つたアテナイに於いては、克己主義者、

=

ii. 23·)。斯くの如きものは恐らく前胞ショーンの法制の模倣であらうと言はれてゐる。西紀前二百十五年の 衣裳を着し、若しくは公の祭禮中を除いては、 綺羅を飾るを取締るの法規が存して居つたが、 にして百九十五年カ の法制は、第二カルクゴ戰役の必要に驅られ、 **強達せる此の國の資本主義が中流階級を凋落せしめ、商業及び小農制度の荒廢の上に不自然なる繁榮を見つくある** 地主制度の農業をして極盛ならしめ、平等主義的社會制度を危ふからしめ、終には國民の倫理的政治的腐敗を來さ むるに及んで著しく其の峻烈の度を加べたものである。此の國に於いては旣に王政時代から、葬式に豪奢を誇り、 羅馬の密修禁止法卽ち費用節減法(sumptuariae leges)は漸次的發達を見たものであるが、 は、如何なる婦人と雖も、半ウンキア以上の金を所有し、種々なる色の布地から仕立てられた ル タ ゴ との平和が成立して後、 十二表法は葬儀の費用を限定するに至つた。(Cicero, De Legibus 都市内叉は其の一哩以内に於いて乘物に乘る可らずと規定した。此 單純素樸なる古羅馬精神への復歸を叫んで居った大力 められたものであつたが、存績二十年 殊に征服の結果として

て居つた。(Liv., xxxix. 44.)。其の後,百八十一年には、正餐に招待し得可も賓客の數を制限せる護民官オルヒウ 對する經費に制限を設け、 費用を制限し、長官が其の布任中に食を共にし得る人々の階級を限定せる年度不明の Lex Antia 等が相次いで發せ せらる可き肉及び魚の高に限度を設け、菜園産物の消費を奬勵した年度不明の Lex Licinia. 諸般の食料の販賣を或ひは規制し或ひは禁止した。リクトル及び兵士は市場を監視し、又食堂に侵入するに忙しか 於いて、Leges Juliae によって之れを復活せしめ、 られたが、其の後は暫く此の種の法制の通過を見ざるに至つた。然るに、ジュリウス・ケーザルは、其の總統時代に ス(Orchius) 法卽ち Lex Orchia- 百六十一年には、平日の食事に十アス以上を費す可からざることを命じた執政官 つたが、ケーザルが西班牙に向つて去るや、羅馬の社會は舊態に復歸したと傳へられてゐる。 四年に檢察官職に就いたカトーは敷種の輸入奢侈品を禁止したが、(Plinius, Historia Naturalis, xiii. 5; xiv.16.)、 アンウス(Fannius) 法側ち Lex Fannia. 百四十三年には、前法の規定を更新せる Lex Didia. 平日に於いて消費 倫理的目標は往々にして財政的目的と背馳するものがあつた。カトー其の人すらも斯くの如ぎ意見を抱持し Porcius Cato-Majot)の熱烈なる反對にも拘らず、終に殷止せられるに至つた。(Livius, xxxiv. 1-8-)。百八 sumptuariae 七十八年には、食料の品種及び分量を規制せる Lex Aemilia 更らに幾分後れて、宴會の 又慕碑及び葬儀の最高費用を規定せる獨裁官スラ(Lucius Cornelius Sulla)の Leges **眞珠及び紫袍を身櫓着くること、轎に乘ること、墓碑の費用、** 八十 (前掲拙著三二〇― 一年には 食料に

の效果を信ずることなく. 斯くの如き法制から餘りに多くを期待す可らずと做して居つたの で あ るが、(Tacitus, ・アウグスツス・ケーザルは幾分ジュリウスの政策を緩和した。個人的には節約であつたチベリウスは奢侈禁止法

(Vopiscus Flavius)等によつで詰されてゐる皇帝中に在つて最も尊敬す可きネルヴァ(Xiphilinus, exc. Dionis 其の他)。 非ざることを説き、博物學者プリニウスも亦、最も烈しく奢侈を非難した。(Historia Naturalis, xxxiii, 1, 4, 13. 等の效果をも擧げることが出來なかつた。羅馬のストア哲學者セネカは吾人が奢侈及び虚飾の生活に捕はる可きに Spartianus) カピトリーヌス(Iulius Capitolinus) ラムブリディウス(Aelius Lampridius)及びヴォピス クス |拙著|||二||三||四貫参照)。殊にディオ・カシウス (Dio Cassius Cocceianus) の羅馬史を撮要せるクシフィリー (Suetonius, Vitae Duodecim Caesarum, Tib., 34; Tacit., Annal., iv, 63.)。ネロも水、同様の態度に出でた。(前掲 ス(Vopiscus, 10 fg.) 等は孰れも常に被服、裝飾及び食料の奢侈を抑制せんととを企圖したのであるが、殆んど何 xvi ii, 2:) 'ハドリアヌス(Spartianus, v. Hadrian, 22:)、アントコヌス・ピウス(Capitolinus, 12:) 'マルクス・アウ レリウス、(Capitol, 27.) アレクサンデル・セヴェルス(Lampridius, 4.)、 Anneles, ii。52 ft.)、而も、法外なる饗宴の費用其の他を抑制するが爲めに取締を行ふの已むを得ざるに至つた。 ノス(Xiphilinus)及び皇帝傳の著者(Augustae Historiae Scriptores)六名中に數へらるトスパチアーヌス(Aelius アウレリアヌス(Lamprid., 49.)、タキツ

任意に教會に財産を委するに至ると共に、アレグザンドリアのクレメンス(Titus Flavius Clemens)の如きは、富め る者と雖も、彼れにして單に其の富を正しく使用しさべすれば、貧しき者と等しく救濟を受くるを得可きものと説 は唯り必要の限度迄であつて、又神の意志に従って享樂は共同でなければならぬ。多數が第三の中に存する際に、 いた。富の正しき使用は主として喜捨に存する。「余は神が吾人に享樂するの権利を與へたることを知る、而も、そ 初めは貧民の宗教であつた悲悩教が、次第に上層階級に浸潤せんとするの傾向を示し、富者が其の献納を増加し、

ことが如何に優る所大であるか、自己の富を、資玉に費すよりも、人々に費することが 如何に多く賢明であるか」。 或る者が過剰裡に生活す可きことは正しくない。而して、 (Pædagogus, ii. 12.)。吾人は多數の容器、 -『三田學會雜誌』第三十五卷第九號所載抽稿『經濟的自給主義 思想史概觀』八—九頁參照)。『神の掟』(Diviae リアダス(Quintus Septimius Florens Fertullianus)は全巻を婦人の衣裳に捧げた一書を残した。(De cultu fem. 携へて、不幸に在る者に空餐を與へることによつで真の休憩を得なければならぬ。(ibid, iii 7-)。而して、テルツ お所のものは、肉體の装飾ではなくして、重荷である。驀地に上天に攀お登る者は、彼れと共に、慈善の清い杖を 旅立に取つて正當な食料は質素であり、節制は靴である。而も、 Divine Institutes, p. 387.)。 贈與と遺贈とによつて教會は巨大なる財産を取得するに至つた。宗教的目的の爲めに に費されるものをより良き用途に向はしむ可きことを脱いた。(Ante-Nicene (institutiones) 七名の著者ラクタンテウス(Lucius Calius Lactantius Firmianus) は慈善の行為が之れを行ふ者の 財産を減少せしめ岩しくは蕩霊せしむるの程度迄推進せしめらるくことを信徒に向つて勧告せずして、唯だ資澤品 精巧なる装飾が燦然として即くに至つた。 建設せられた建物の中には最早初期基督教時代の單純素樸は之れを見ることを得ずして、巨額の費用を要した華美 白銀及び黄金の酒盃、及び大勢の召使を斥けなければならぬ。天國への 批麗なる邸宅を有するよりも、 餘冗なるもの、 Christian Library, vol. xxi, The 彼れ等が富者の裝飾及び裝具と呼

9

等奢侈財は存することがなく、 南工業の進步に殆んど何等見る可きものくながつた中世初期に於いては、カロリング王朝時代に於いても猶ほ 是れ等のものは遙かに後に至って現れたものであると做すの意見が

存してゐる。

françaises dépuis l'an 420 jusqu'à la révolution de 1789, 1825, xi, p. 155)。 不迭なる奢侈品の品種は一千五百 王國の公の輻利が損傷せらるトでと重大なる旨を聲明してゐる。(Isambert、Recueil general des anciennes lois ∞るりありた。(Ordonnances des Rois de France de la troisième race, êd. par Vilevault, Brequigny, Pardessus, Pastoret etc., I, 1773, 324, 541.)。 | 手四百八十五年の勅令も猶ほ:貴族を除く總へての者が貴族の如くに生活し 二百九十四年に佛蘭西王フィリップ四世卽ち端麗王の發したものであつて、身分に從つて食料及び衣服を規制せる 等によつて奢侈禁止法は競せられたが、中世の歐洲に於ける這般の法制中に在つて最も著名なるものと一は、一千 圖せるものである。伊太利亞に於いではプレデリークス二世、アラゴンに於いては一千二百三十四年イアゴオ一世 に準じて奢侈品を制限し、急速に消滅せんとしつよある被服及び生活方法に於ける階級的差別を維持せんととを企 (Werner Sombart, Der Moderne Kapitalismus, neugearb. Aufl., 1916, Bd. I, S. 62, n. i.)。然しなおいて P-332.)。奢侈品商業が早くから行はれて居つたことも亦否む可からざる事實である。而も、是れ等の奢侈品は概し 禁止法は中世に於いで極めて早く現れではゐるが、而も、這般の法制が特に顯著となつたのは封建及びギルド制度 で國王 教會 及び貴族の所有に歸ぜるものであつて、 の主張。亦存してゐる。(Alfons Dopsch, The Economic and Social Foundations of European Civilization, 1937, が衰頽して資本主義の發達を見た中世後期及び近世初期のことである。是れ等法制の多くは經濟生活の發達と共に 於いては、カロリング王朝以前に於いて斯くの如き財貨の存在せることを立證す可き文書が充分に存在すると做す 金モール、銀モール若しくは絹布を着用するととを禁じた。而も、此の刺令は又、 封建的支配の外に立てる大貨幣資産の形成によつて身分的社會の崩壞するを防ぐが爲めに階級 薔來の社會秩序を破壞す可き性質のものではなかつた。奢侈 這般の大失費によつて此

が商人及び金融業者の側に於ける金融上の悪弊及び瀆職を生ぜしめることを惧るとの念に發したものである。(ibid., 三十二年の勅令によつて著しく増加せられた。本法は一面に於いて、市民階級の妻女及び家族による過大なる投費

爵士に對し、如何なるものが二百馬克を受ける者に對し、如何なるものが職人に對して許容せらる可きか等を規定し 各階級の身分不相應なる奢侈的被服を取締ることを目的としたものであつて、如何なる衣服が四百馬克を受ける勳 英國に於いては、平ドワード三世の一千三百六十三年に發せられた彼服に闘する條例(37. Ed. III.c. 8 年) は、 貴族に非さる如何なる婦人も天鵞絨を着用してはならず、叉、如何なる男子も餘りに贅澤に開口を造つたり、

縫ひ飾つたりした其の略服(doublet and hose)を有じてはならなかつた。 弱であった地方に於いては、 る)、L箇の黄金及び眞珠の頭彼、Tiara)、其の上衣に附せる絹の緣飾(黄金叉は眞珠にあらざる)及び、孰れのものと 衣い六着の長外套、三着の舞踏服、一着の褶を取つたマシト、二本の眞珠の頭髪紐(十二フローリン以上を費さど が屈指の町人の妻女に許された裝具であるととが規定せられた。道を說く者は市民と其の妻の贅潔なる服裝を歎じ が寡頭政府の爾餘の執政者以上に傑出するを危惧するの念に發したものであった。 た。商人が今や國王の如くに生活しつゝあることが幾度びか愁訴せられた。ヴェネチアの奢侈禁止法は一部の富者 斯くの如き制限法は唯り佛英のみには限らなかわたのであるが、而も、是れ等諸國に比して中央政府の權力が微 婚約若しくは結婚の指環に非ざれば、二十五フローリン以上を費す可からざる其の他多くの種目の實玉細工 立法は寧ろ地方的であつた。一千四百八十五年、獨逸の一都市に於いては、八着の上

貨幣が、後には我れ等の敵を援助し且つ擁護する外國人によつで我れ等の王國から引き出される」に在つたのであ 及び種々なる種類の黄金の刺繍及び装飾を其の身に着くることを禁ぜんことを求め、又ドルワーショーモン其の他 者の意見並びに同階級の上奏書に基いて、鉛、鐵及び木材の鍍金、並びに外國より齎さるゝ香料の使用を禁止する 金主義的動機は一千五百五十四年の法律に至つて 二層明瞭となつだ。同法は、佛蘭西に對して屢々敵對的行爲に出 而も、貴族以外の何人と雖も「絹の上に絹を」着用することを禁じた。(ibid., xiii, p. 101-104.)。 奢侈品禁壓の地 特許狀によって確認せられた。一千五百四十九年の勅令は法官連の妻女が絹の袖及び飾りを用ふることを許したが、 する憂慮に由って動されることが多くなつた。佛蘭西に於いては一千五百四十三年、奢侈的織物類は再び禁止せら 得ざるものと定められたのである。(Isambert, op. cit., xii, pp. 834-835.)。 る。斯くて、金銀モール、刺繍・縁飾、天鷺絨其の他は唯り王室の方々を除き何人によつても着用せられることを いて云々してゐる。(jibid, p. 374.)。一千五百六十年,國會(États Généraux)に於ける第三階級(tiers-état)の代表 **動令が發せられ、同六十一年、六十三年及び六十五年の布告は衣服の奢侈禁壓を强化した。而も猶ほ前記六十年** 貨幣經濟の發達に連れ、政治家の注意が貨幣及び地金の供給に向ふと共に、奢侈禁止法よ亦流通資料の缺乏に對貨幣經濟の發達に連れ、政治家の注意が貨幣及び地金の供給に向ふと共に、奢侈禁止法よ亦流通資料の缺乏に對 貴族等の上奏書は總べての階級の奢侈を抑制せんことを願ってはゐるが、殊に第三階級の其れを減小せん 其の理由は一定戦の人民によつて是れ等のものと上に投ぜらるゝ法外なる冗費によつて、「巨額の 貴族は其の威嚴を保持するを得るが爲めに彼れ等の階級に屬する者以外の何人と雖も、天鵞絨 天鵞絨及び其の他の絹物類を購入するが爲めに王國外に持ち出さるゝ巨額の貨幣に就 Géréraux, I. 1789, p. 144.)。 | 十五 一千五百四十七年、是れ等の規制は

百七十一年には、金匠は重量一マル半以上の如何なる金銀物件をも製作することを得ず 使用することは九十四年の宣言によつて禁止せられた。(Esambert, op. cit., xiv, p. 90.)。 九十六年には、ルーオ 三年、七十六年及び七十七年の新勅令によって衣服及び奢侈は更らに制限を受けた。(ibid., xiv, p. 260, 305, 等の業務は廢止せられざるを得すと云ふものが存して居つた。(Recueil des Cahiers, ii, p. 340, 。 織物に金銀を る衣服に金銀を使用することを得すと云ふ新しい規定が發布せられた。(Isambert, op. cit., xiv. p. 237.)。 (Charles Joseph Mayer, Des États Généraux et autres Assemblées Nationales, xvi, 1789, p. 18-19.)。 | 午石百 ンの貴族會議は金銀絲織、 ィ四世によつて發せられた。パ 七十六年の國會に於ける平民の建自中には、金箔師は巴里だけでも金銀の夥しい量を使ひ膝すが故に、彼れ 前記九十六年の貴族會議の意見に基き、絹物類、金絲織及び銀絲織で輸入を禁止するの動令がアン 寳石、眞珠及び其の他の奢侈品に對する舊い制限法を復活し闘行す可きととを求めた。 义、仕立屋は其の仕立つ

數個月を出ですして撤廢せられること♪なつた。而も、ラッフェマスは是れに由つて鋭氣を挫かるゝことなく其の た。里昂商人等は全力を擧げで前記勅令の廢棄に努め、其の運動功を奏して同勅令は實施不可能と看做され、僅々 父子の强力なる 宣傳に於いて 看出し、里昂は 國王輔弼の 名相スュリィ公爵(Duc de Sully)によつて後援せられ 山火 Reiglement général pour dresser les manufactures et ouvrages en ce royaume et 當時是れ等の財貨に對する重要なる集散地であつた里昂と資澤なる織物を製造して居つたツールとの間には利害 傳を續けた。此の論爭に於ける彼れの主張は前記九十六年の貴族會議の際に産業改革案の一部として國王に上申 ールは其の味方を國王の政策とベルテルミ・ジ・ラッフェマス(Barthélemy de Laffémas) couper le cours

changes, 1597. 中によく現れてゐる。 draps de soye et autres marchandises qui perdent et ruynent l'état, 1597. (私よせい empescher rompre le cours des marchandises d'Italie, avec le préjudice de leurs foires, et l'abus aux 同じ年に巴里で出版せられた附錄附の再版も傳つてゐる)並びに Responce a Messieurs de Lyon, lesquels

是れを以つて總べての階級が、衣服を供せられて居つたのであるが、現在に於いては **眞珠が歳の經のに連れて黄色に化し、裝飾品として其の用を爲さざるに至るが故に、特に之れが輸入を非議した** 確立せられなければならぬ所以であつて、 非ざるととを遺憾とした。五六十年以前には巴里其の他佛蘭西の大都市に於いては單に毛織物のみが製造せられ、 長持ちのしないミラノの絹刺繍を排斥した。(ībid., p. 56-57.)。然も (Reiglement Général, op. cit., p. 38.)。彼れは奢侈的織物に關しても、長持ちのする金絲織及び銀絲織を是認して、 (Advis sur l'usage des passements d'or et d'argent, 1610, p. 1-2.)。 彼れは財貨の永續性を尊重した。彼れは、 **尙ほ金銀の流出を防止するの手段として切に奢侈品の過度の便用を抑制しようとした。彼れは是れが爲めに、古、** シラクザの僣主が、宴會及び遊蕩の敷を減少するが爲めに、夜盗を奬勵せるの舉を稱讃するとどをすら敢てした。 特に絹織物業を確立し國外よりの絹物類の輸入を禁止するの目的を以つて桑樹の栽植と養蠶とを力説した。 - ラッフェマスは國家の經濟的統一の概念を力說し、而して明確なる重商主義的針路の上に産業及び商業の徹底せ る政治的統制を行はんことを主張せるものであつた。彼れは外國貨物の排除と内國産業の鼓舞とを强調し、而して、 **英吉利其の他より到來しつゝある他の織物のみを着用する。彼れを以つで觀れば、是れとそ製造業が佛蘭西に** 然らざれば、人々は貧困且の懶惰となる可きである。 ラッフェマスは是れ等の反物が國内製品に (Recueil présenté 彼れは

au Roy de ce qui-se passe en l'assemblée du commerce au palais à Paris, 1604, p. 244.)°

royalles oeconomies d'Estat, domestiques politiques et militaires de Henry le Grand, 1638, xii, xvi, xvii.)° あらゆる貨幣の輸出は之れを強硬なる手段を以つで抑制するの要あるものと認めた。(Mémoires des sages et の附屬物、即ち肉欲、柔弱及び懶惰を誘入するに至る可きととを舉げた。彼れば又、總べて公私の費用に對する頭 に於いて國家に取つて眞の支柱たる地方の人民を衰弱せしめると同時に、都市の人民によつて奢侈及びあらゆる其 **之れに對し、スコリィ公爵は彼れが國王の桑樹栽培獎勵に反對する理由の一として、絹ゝ物の生産が、あらゆる貼** 的節減を行ふごとを目的とし、高價なる外國貨物の消費を以つて國家を窮乏せしむるの處れあるものと看做し、

外流出を來さしむ可きととを痛論し「秘魯及び墨西哥の總べての金銀が佛蘭西内に溢れる迄に注がれるに至つたと par A. d. Montchrétien, publié par Funck-Brentano, 1889, p. 61:)、廣く輸入絹物の使用せらるく事實が正貨の國 しめ、男子を優柔ならしめ、叉、女子を不道徳ならしむ可きであると説くと共に、(Fraicté de l'economie politique, six livres de Fa république, 1589, p. 887.ソ、而も彼れの奢侈に對する攻撃は貨幣の流出を惧るこの念よりも寧ろ倫 望に從ひ、又、貧民の便益を目的とする徴税の法を以つて贅澤品に對する課税であると主張したのであるが、(Les 理的觀點より來るものであつた。然るに、ラッフェマスの影響を受けることの大であつた重商主義者モンクレチア ン(Antoyne de Montchrétien)-は、奢侈的虚飾にして持續するならば、そは軍隊を壞滅せしめ、諸都市を不遜なら しても、岩し此の喞筒(卽ち這般の奢侈的使用)が之れを汲み盡して、他所に運び去るならば、そは何の役に立つかし ジャン・ボーグン(Jean Bodin)も亦、過度の奢侈の有害なることを認め、神の榮光と國家の利益に副ひ、富者の願

concernant la fenue des États Généraux, ix, 1789, p. 58.)。而して、一千六百四十四年十二月十二日附ルイ十四世 禁予可しと做すの主張も存して居つた。 (L'alourcé et Duval, Recueil de pièces, originales et authentiques 萬リヴルを消耗する錦其の他の國內工業も亦、同一の影響を有することを歎じてゐる。一千六百七十二年、 の宣言は、外國奢侈品の輸入が、佛國より其の金銀の總べてを奪ふの危険あるのみならず、里昻のみでも、 居つたのであるが、而も、國産以外の絹織物の使用が正貨の大輸出を來さしめるが爲めに國内に於ける其の販賣を の俳蘭西國會に於いて奢侈の問題が論ぜられた際には階級的差別に對する舊い要求が猶ほ存して 組末なる銀製の什器が禁止せられた際に、特に是れ等のものく總べては造幣局に交付せらる可 一週一 コル

差別の消滅を防止せんととを欲するものであり、一千五百三十年の典れ(Tit. 9:)並びにフェルディナント一世の ならしむるものとして、一手四百六十三年には外國製の毛織物は貴族階級以下の者には禁止せられ、絹加工品の輸 S. 169 ff.; Roscher. op. cit., S. 429.)° せられたものである。一千五百四十八年の神聖羅馬帝國の治安法令(R.P.O., Tit. 9:) は過度の貨幣輸出と階級的 者は金若しくは鍍金の飾鐃を帶ぶるととを禁ぜられた。有緣帽、無緣帽、靴下其の他に絹を使用することを禁じた 入は禁ぜられた。一干五百十五年には、貴金屬が無暗に衣裳に使用せらるくを制限するが爲めに、士爵階級以下の 《太利治安法令は單に階級的差別の消滅のみを防止せんとするものであつた。(Mailath, Gesch. von Oesterreich, ii 英國の法制は經濟的色彩を帶びることが更らに强かつた。絹物其の他の輸入は自國を貧困ならしめ、他國を殷富 ・カソリック女王朝の法制($1 \otimes 2$ Phil. \otimes Mary, c 2.)は自國の半毛工業を奨勵するの目的を以つて發

を生じた。吾人は他の機會に於いて、英國に於いては、グブルユー・エス・デェントルマンと名乘る人が、輸入品の量の 百七十一年に議會が貴女及び紳士を除き、總べて六歳以上の者に日曜及び祭目に羊毛の衣服を着す可きことを命じ に從つて奢侈品を制限せんとする奢侈禁止法は消滅して、 たのは國産毛織物を保護するの目的に出でたものである。(Edward Whittaker, A History of Economic Ideas, 於いて生産せられ得るやうな極めて瑣末なる物に代べて其の重要貨物を英國人より拉し去ることを歎じつゝある旨 り發せられたものであらう。(E. Lipson, The Economic History of England, vol. iii, 1931, p. 118.)。 一千五 所謂重商主義時代に入つて、富裕なる町人階級的成上り者の大部分が貴族的地位に引き上げらる」と共に、階級 其の質をも亦注意す可きことを説き、 寧ろ國家的見地よりして漁業を奨励し、魚の食用によって肉類を節約し増加せんとする實際的目的 際に於ける精進令の如きは、人々の肉體をして彼れ等の靈魂及び精神に服從せしめんとする上宗教 八年版拙著『古版西洋經濟書解題』四二頁以下參照)。一千五百四十九年を以つて發布せられた金 外國人が英國人に取つては全然無くても済むか若しくは英國内に 奢侈の問題をも多く國民的全體的見地から考察するの

かあると叫んだ。彼れは當時の新興大商事會社が何等の效用もない絹物及び繻子を印度から輸入して、國內の金銀 宗教的倫理的目的より奢侈を抑制せんとする意向も亦、屢々正貨流出に對する危惧の念と交加した。マルチン・ル ーはカルカッタ其の他の地方から輸入せらる、香料、 國内に一片の貨幣をも留めざるの窮狀に自國を陷らしむることを歎じた。洵に、是れ等奢侈品の流入は啻 自負、嫉妬を生ぜしむるばかりでなく、又、庶民の疲弊を來さしめるものである。然しながら、 絹織物及び金襴の類が奢侈と虚飾との外に果して何の用

Hutten)も亦奢侈を攻撃することが痛烈であつた。 介者、商人は容易に利潤を舉げるのである。ルッ に從つて計算せられずして、消費者の所要に從ひ。稀少性に從つて算定せらるくことを歎ずる。是に於いて乎、仲 **署侈品は禁止せらる可きである。彼れはアプラハ** 間に分つた其の賜物を賣買したに過ぎない,新たなる交易は單に我が金銀を國外に驅逐するに過ぎざるものであ 其の特徴の或る者を批評するの擧に出でる。 標準を改善する際にのみ生じたのである。 の理想は農業的共同社會であつた。然しながら、彼れは自己の生活しつゝある社會の一般形態を承認 貴族及び王公の如き不生産的地位を占めつくある人々が其の臣民の負擔に於いて自己 彼れは單に家畜・ 羊毛、穀物、牛酪及び牛乳の如き、肺が大地より生ぜしめて、人々 グーと共鳴する所の大であつた人本主義者フッテン! (Ulrich von ムの如き族長等の例に做ふ可きことを説く。アプラハムが實質を 彼れは言ふ、「吾人にして政府及び正公を有するならば」、是れ等の 彼れは貨物の價格が生産に投入せらる~勞働及び生産者の所要

and Cases of Conscience, 1673, を以つて罪思と認め、 用を純然たる必要品に限定せんとする者に反對した。清教徒の如きは消費を以つて殆んど其れ自體に於いて罪惡と りょ遙かに優れる公共社會の成員であると説いた。(A Christian Directory: Or a Summ of Practical Theologie, ジャン・カルヴァシは奢侈を以つで罪悪であると看做し、熱心に奢侈禁止法を擁護したが、而も、 教友派卽ちクェーカァ教徒の祖デョーデ・フォックス(George Fox)の如きも、愚かしい快樂 (A Journal or Historical Accounts of the Life of George Fox, 1694, ed. N. Penney, ード・バックスタェ(Richard Baxter)は濫費の害悪を列舉し、 pt. iv, p. 147.)° 清教徒及び教友派の間に於いて勵行せられた單純なる生活は疑 貪慾者を以つて浪費者 現世的財貨の使

中層階級の手中に於ける資本の集積を促進するに資する所があつたであらう。

である。 を拂つても自國の奢侈的生産を鼓舞し、 あつた。一千七百四十五年に佛國産のローン(寒冷紗の類)の販覺又は使用に對して五磅の罰金を科せるが如き是れ とがならやうじなつた。(Adam Anderson, An Historical and Chronological Feduction of the Origin of Commerce 的な要求が現れた。英國に於いては?奢侈禁止法の性質を有する大多數の法制は一千六百〇四年に廢止せられた。 を大ならしめた。而して、 に向ふ時には輸入をして輸出に超過せしめ、正貨の流出を來さしめ、 大不列顧國に於ける這般の法制は、一千六百二十一年の蘇蘭の一法規を名殘りとして 軈がて、 の國の規制は斷じて法外なる失費を禁止することを目的とするものではなく、明かに國産保護を企圖するもので 自國製品に對する限りに於いては、國家に取つて有利であり、敢て之れを禁壓す可きではないが、一度び外國品 Earlest Accounts to the Present Time, 1762, a. 1621.)。其の後に於ける「定の外國品使用を禁止する 重商主義が商人的特殊的見地に立脚するに至り、爲替均衡論が貿易均衡論に道を譲ると共に、奢侈と雖 倫理的考慮は軈がて其の當時の論者の多くがら消滅して、之れに代つて、如何なる懷牲 外國産物の販賣を阻止しようとする縱令ひ不道德ではないまでも、 自國の貧困を増加するものと思惟するの傾向 其の後は議會を通過すると

commerce par tout le monde, 1623, p. 128-129.)、 胆コヤ・ 於。(Ee nouveau を禁墜するの刺令が無效なることを認め、眞の解決は國王及び貴族が單純質素の範を垂るくに在りと做して居つ 佛蘭西に於ては、クリュセ(Émeric Crucé)の如きは、奢侈を以つて國家破滅の本と觀て居つたのであるが、而も之 Cynée, ou discours des occasions et moyens d'establir-ure paix générale & la liberté du 此の國に於けるあらゆる奢侈禁止法はルイ十五世の治

此の種の法律の或る者が第十八世紀の末迄殘存して居つた。葬儀に關するものが最も長く存續した。(Roscher, op. 世に於いて事實上空文に歸して居つた。(Des Essart, Dictionnaire universel de police, vi, 146:)。獨逸に於いては

號所載一分配論以前一参照)。 の消費能力を著しく制限するの傾向が存して居つた。唯だ救貧法制度が幾分彼れ等をして極端なる窮乏を発れしめ 六、七世紀を通じて治安判事による賃銀の査定は之れをして人爲的に低水準を維持せしめ、斯くて又、賃銀生活者 定せんとするの意見すら提唱せられた。(Thomas Manley, Usury at Six per Cent. examined, 1669, p. 9.)。第十 Inquiry into the Management of the Poor 1767, p. 72.)、叉、貧民の勞働に對する賃銀を切り詰むるの法律を制 Political Speculations on an Attempt to Discover the Causes of the Dearness of Provision, 1767, p. 33; An of the store, and trade of this Kingdom, 1663, pp. 28-29.) たに止まる。(昭和十二年版拙著『重商主義經濟學說研究』七五〇一 の經濟」が主張せられ、 であると觀る者が多かつた。 めに盗しく國外に費消せらる可き其の富を節約し、 ではなく、寧ろ高率なる關稅の賦課によつて國家は多大なる收入を舉げ、國土は是れ等の貨物が高價となつたが爲 の時代の經濟評論家中には、單に國内に於いてのみ消費せらるゝ精製貨物と雖も、其の輸入を禁止せらる可き (Bernard de Mandeville, The Fable of the Eees, vol. i, 4th ed., 1725, pp. 327, 328; (cf., Sam. Fortrey, Englands Interest and Improvement. Consisting in the increase 而して自國内に於ける製造工業を鼓舞獎勵するに至らしむ可き 而して又、一部論者の間には「貧困の效用」「低賃銀 - 七六二頁、及び『三田學會雜誌』第二十九卷第八

| 同時代に於ける更らに樂觀的なる論者は、啻だに、衣裳其の他の華美と雖も、 自國製品を使用するの形態を取り

之れに準じて他のものは出世し、 されを刺戟せんとするの傾向を有して居つた。サー·ウィリアム·ペチィは、饗宴、豪華なる觀物、 可きものであると思惟するに止らず、あらゆる需要の形態は等しく皆、貿易に取つで有利なることを主張せんとす 財寶を図内に保留するを得るものであり、叉、國民中の。或る者が奢侈放逸なる生活によつて零落したとするならば、 interest, coynage, clipping, increase of money, 1691, p. 15.)。佛蘭西に於いては、 15.) 『其の國王及び國家を眞に心から愛する者』と名楽る人は、一般の奢侈的生活が工藝の進步を誘致すること大な 費された貨幣は是れ等のものゝ上に勞作せる職人に拂ひ戾さるゝ所であり、斯くの如き職業は無益のものであり、單 みは触め (England's Great Happiness: or, A Dialogue between Content and に裝飾的なるの観あるも 大なる支出を爲すの時、賑恤を行ふものである」と稱したと傳へられてゐる。 つて勤勉の障害たるものであると做した。 は交易に對する主たる刺戟を以つて人間の物欲であると觀、之れを抑制するの效果ある奢侈禁止法の如き方策を以 市生活は國家の收入を増加するものであると觀、(A Discourse of Trade, 1690, pp. 62-70.)、 |屋其の他に狒ひ戻されると云ふ理由に據つで之れを是認し、 いある限りに於いては國家に取つて有利なるものであつて、 放埒を以つて個人に取つては有害なる惡習であるが、商工業に取つては然らずと做し、華美なる都 彼れ等は中世的見解とは全然反對に、購入者の地位及び身分とは至く無關係に奢侈を是認し、 のではあるが、 且つ貨幣は一層移動的となり、 (Discourses upon Trade; principally 是れ等は軈がて最も有用なるもの、即ち醸造者、 是れに由つで技巧を奬勵し、人民に職を與へ、 (A Treatise of Taxes & Contributions, 人民に對して大なる刺戟と滿足とを與ふるに至る Complaint, 1677, p. 6.) directed to the cases of the イ十四世は「國王は彼れが巨 グッドリィ・ノー 麵麭屋、裁縫師、 ・凱旋門其の他に 1662, p. ニコラ

横はつてゐる矛盾を解決し、有利なる奢侈は不徳に非ざる旨を主張したのである。 (前掲拙著一〇四四― 穿つの慣ひであつたならば、 を生ぜしむるは一人民中に勤勉を生ぜしむる最適當の方法ではあるまいか。而して、我が百姓が牛肉を食し、靴を の監督バークリィ(George Bezkeley)も亦、其の一千七百三十五年より七年に至る The Querist. に於いて、「欲墜 民に勞働の機會を與へるものであると做して、之れを道德化せんとするの見解が存して居つたのである。ウァイン 取つて先づ現れるものであるから、 研究』:〇五四——〇五六頁參順)。 聊かも是れが爲めに貧困となることのないものであると考へたのである。而して つてしたならば、 どを示すと同時に、其の隣邦によつて尊敬畏怖せられ得るものであると主張せられた。(前掲『重商主義經濟學説 べての安慰と充實との中に生存するを得可く、 斯くの如き思想的傾向は遂にマンデヴィルの『蜜蜂寓話』を産まなければ已まなかつた。彼れは賢明なる施政を以 兵士をして充分なる支拂を受け、 ・ヒュームの如きも、 全人民は自己の生産せるものを以つて購入し得る限り、 彼れ等は更らに勤勉であつたのではなからうか」と問ふた。(1bid., qu. 20.)。かのデー 奢侈的生産の社會的利益を指摘し、其の功利主義的倫理に依つて經濟と道德との間に 奢侈は經濟的發達に取つて必要なる現象であると觀じ、 質に此の時代に於いては、あらゆる經濟的進步は悉く皆、奢侈的欲求の形態を 永く其の訓練に於いて遺憾なきを得たならば、富裕なる國民は想像し得可き 而して其の幾多の部分に於いて人智の案出し得る極限の華麗と優 多量の外國産奢侈品の中に浸りながら、 軍備に對して適當なる注意を拂 而して奢侈的消費は貧 一〇五七頁

六

八世紀初頭の佛蘭西に於いては、軍大なる害惡を醸成しつゝあつた極端なる軍商主義に對する熾烈なる反對

經濟」に反對して消費の意義を强調した。彼れは消費(consommation)を以つて總べての富の原理であると思惟した。 論者として立つたボアギルベール(Pierre le Pesant de Boisguillebert)は前述せるが如き、「貧困の效用」「低賃銀の régne dans le monde à l'égard de ces-trois articles—Le Détail de la France, 1707, p. 403.)。 君主と其の臣民 再三補償を行ふ可きである。そは其の小作人に土地に種子を播くが爲めに之れ無くしては彼れが收穫を得ることな 間を、唯り、其の國の有する質だに是れ等のものを生産するばかりでなく又之れを消費する力の大小の程度のみに負 ると云ふことが一つの原理として表示せられ得る」ものと觀たのである。(Le Détail de la France, かる可き穀物を貸與する主人に類する。(ibid., p. 420.)。ボアギルペールは實に「消費と所得とが全然同一物であ 十分なる享樂から成る」と。 等は全然貧者をして其の租税を免れしむ可きである。そは直ちに更らに多くの裕福なる人々を生ぜしむ可きであ 是れに由つて消費の大増加を来さしむ可 のが消費せられないならば、碎屑に外ならないであらう。總べての産物は其の出生、 (Dissertation de la nature des richesses, de l'argent et des tributs, où L'On découvre la fausse idée, qui 一管だに生活の必要品ばかりでなく、總べての冗物及び諸感覺に快感を與へることの出來る總べてのもの 當時の佛蘭西に於いては、奢侈に關して二様の解釋が行はれた。ボアギルベールと等しく、 此の世の總べての富は唯り消費より成る。太地の最も結構な果實及び最も貴重なる産物は是れ等 而も、 社會に取つて一層有利なるものである。富者にして彼れ等の利益を知るならば 彼れに從へば、贅澤品を取得するは唯り必要品の過剰に比例してのみ可能で 得るは唯り之れのみである。(ibid, p. 416.)。 そは一國の全集團の上に波及して、富者の最初の前拂ひに對して 一層衡平に分割せられた 1707, p. 深く此

publiés d'après l'édition originale et les manuscrits avec une introduction et des notes par É. Coornaert, 1933 る仕事によつて生活せしめらるゝを得るものであると説いてゐる。(Suite du quatrième livre de :l'Odyssée" d' Salignac de la Mothe Féncion)は雷だに奢侈のみならず、ルイ十四世及びコルベールに對する反動として工業をも 亦敵視した。彼れは、 家庭に於いて飲用する消類に對しては課税せざるも、居酒屋に於いて飲用せらるゝものに對しては其の各桝(muid) に對して徴税す可きことを提唱した。 に費す農夫の失費を抑制し、而して彼れ等を騙つて更らに謹嚴ならしめ、家庭に止まるの習慣を養成するが爲めに Vauban は其の第四種中に於いて「遊擊的課稅」(imposts volontaires)として煙草、酒 eau de vie)、茶、 るに四種の「基本」(font)を以つてせんことを提案したヴォーバン元帥 (Seigneur Sébastien le Prestre de の時代に於ける佛國勤勞階級の悲慘なる狀態を其 輪馬軍、過大嗤ふ可き鬘の如きものに對して消費稅を課せんとした。彼れは又、幾分、日曜及び祝祭日を居酒屋 の Projet d'une dixme royale, 1707. に於いて、輸出入關稅を除く外、總ペての現存課稅を廢止し、 ou les aventures de Télémaque, fils d'Ulysse, 1699, liv. xxii.) 奢侈品、家僕、貴族にも軍人にも非ざる者の佩用する刀劔、家具の法外に華麗なるもの、燦爛たる母衣附 原始的生活の 單純なる 諸形態への 復歸を思ふの一念に 憑かれて居つたフェヌロン 奢侈が富者の費用に於いて貧民を養えものであると做すの說を駁して、貧民は慥かに有用な (Projet d'une Dixme Royale suivi de deux écrits finançiers par Vauban の心に銘じ、又課税の不條理が其の極度に達したることを認め、 (François de 之れに代ふ 珈琲、チョ

富を生じ、 第十八世紀に於ける奢侈に對する最も著名なる反對者としてはジャン・ジャック・ルツー 富よりして奢侈及び怠惰を生ず るものと観た。 奢侈は貧民に麵麭を與へることを口實として爾餘總べ が居つた。彼れは不平等よ

ての者を疲弊せしめ、而して早晩、國家の人口を絕滅せしめる。奢侈は其の癒治せんことを呼號する病患よりも遙 る共和政體に於いては斷じて奢侈は存し得ざるものである。一共和國内に奢侈の存することが愈々少なければ、そ 、る」ものと思惟した。(De l'Esprit de Lois, 1749, livre vil. chap. 4)。 之れに反して、富が均等に分配せられてゐ 奢侈は階級の相違を維持するが爲めに必要であつて「富者にして若し多くを費すてとがないならは、貧者は餓死す 財産の不平均に比例すると觀たモンテスキューは、 アムステルグムに生れて、 かに不良なる治療法である。更らに適切に言へば、そは本來大小あらゆる國家に取り總べての罪惡中に在つて最大 と解して之れを非議した。 は愈々完全なる可きである。(ibid., chap. 2.)。共和政體は奢侈によって終止し、君主政體は貧困によって終止する。 重商主義より自由主義に赴かんとする過渡期の産物と稱せらる可き其の『法の精神』に於いて、奢侈を以つて常に င္လပ္နန္းကုိ (Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité parmi les hommes, 1755, appendice.)° 暫時ポルドーに居住してゐたピントォ(Isaac Pinto)は又、奢侈を以つて所得以上の費用 (Essai sur le luxe considéré relativement à la population et à l'économie. 1762.) 君主政體に在つては、富が不平均に分配せられつゝあるが故に、

(ibid., chap. 4.)° mondain, Apologie du luxe. 及び Sur l'usage de la vie. デュモン(Dumont)の Théorie du luxe, 1771. 及び伊太 利亞の法律及び政治學者フィランデェーリ Essai politique sur le Commerce, 1734,(ch. ix.)、うかゃんりーや (François Marie Arouet de Voltaire) & Le 他方に於いて、奢侈を辯護せるものにアウグスト・オンケンの所謂「革新重商主義者」ムロン(Jean François Melon) (Gaetano Filangieri) S. Delle Leggi politiche ed economiche. lib. ii

des Oeconomies Royales de M. ae Sully, xvi; Maximes Générales du Gouvernement Économique d'un Royaume れ等の所得又は利得の一部を流通及び分配から削除するもの 々をして實りのない節約(epargne stériles)に耽らしむることを戒めた。卽ち彼れを以つで觀れば、斯くの如きは彼 料の奢侈、若しくは農業の運營及び改良の投費及び生存的消費に於ける投費を害するものと觀たのである。(Extrait 飾の奢侈(luxe de décoration) を以つて、自國産食料品の良價格と賣れ行き及び國民の所得の再生産を維持する食 る國家を衰滅せしめ得るものである。(Explication du Tableau économique)。彼れは重農主義的見地に立つて、裝 ととがなかつたならば、國民的配當は減殺せらる1旨を說いた。然れば、過度**の**裝飾上の奢侈は頗る急速に富裕な 於いて、若し富の大部分が、年々第三項目卽ち不生産的費用に吸收せられて、第一項目卽ち生産的費用に歸入する ques et philosophiques de F. Quesnay, par Auguste Oncken, 1888, p. 193 f.)。而して、彼れは其の『經濟表』に るゝ所とは正反對に奢侈品を國外より購入するに在る。(Grains 紫を荒廢に委して顧みなかつた。人民は葡萄樹の培養を禁止せられて、 である。凡庸なる後繼者によって一層其の短所を暴露せしめられた重商主義の餘弊は當時の佛蘭西に於いて最も甚 しながら、ケネーの意見に從へば、眞の國民的經濟政策は佛國國土の大生産力を利用し、 があつた。久しきに亙つて製造業、殊に絹布の如き奢侈品の製造を奨勵けるに存した政府の政策は全く農 而して、 彼れは或る程度迄前掲モンテスキュー流の思想を享有し、地主及び營利的職業を營む人 を中心とする重農學派は奢侈の國民經濟に及ぼす影響を分析したの であるからである。(Extraît, v; Maximes, xxi.)。 -Encyclofedie, tome vii, 1757; Œuvres économi-一般に桑樹を植えることを勸告せられた。 而して、當時企圖せら

Ferguson)は奢侈が國民的光彩及び福祉の一事項たらしめらるくの時、吾人は單に、富の不平等なる分配の無害な 消費及び破滅を成場するの観ある増大しついある物欲及び優美なる趣味の影響から富の永續的増加を收受する。 る結果として、又相異なる階級が依つて以つて相互に依存せしめられ、又相互に有用ならしめらるゝ方法としての のたらしめられる。公共其の者は其の財本を浪費するの觀あるものに由つて利得者たらしめられる。而して、そは み之れに就いて考へると説いた。貧民は技術を實行するものたらしめられ、而して富者は彼れ等に報酬を與へるも An Essay on the History of Civil Society, 2nd ed., 1768, pt. vi, p. 376. 的消費は國富增進、國力發展の上に如何なる作用を及ぼす可 きであるか。アグム・ファーガソン(Adam

調した。(Wealth of Nations, op. cit. vol. i, pp. 409 ft.)。古典的經濟理論に從へば、より大なる所得を有する者 働者に仕事を與へ、而も同時に、一方に於いては彼れ等自身に對して利潤を招來し、而して他方に於いては爾餘の總 れたとしたならば、資本財化對する需要は、享樂財の總收益の中から補償せらる可き資本償値に局限せられ、消費 せられた資本の 再補償を 可能ならしめるに止まり、經濟的進步は 妓に 停止するに至る可きである、之れに反し、 然るに、アダム・スミスは、資本が吝嗇によつで増加せられ、濫費と不始末とによつて減少せしめらる」ことを強 財の持續的生産に對して其の前提たるものである。是に於いて乎、あらゆる所得が悉く享樂財に對して使用せら 民の財貨享樂に資する新財貨の堆積を生ぜしむ可きである。(Wilhelm Lexis, Allgemein: Volk-wiitschaftslehre, の消費を制限し、而して愈々大なる總額を新たなる資本として生産的目的に投入するならば、常に國民經濟的 有利なる可きである。彼れ等は是れに由つて彼れ等が同一の高を奢侈的出費に向けたと少くとも同じ数の勞 1913. S. 215.)。享樂財の享得は資本の消費を前提とするものであるから、 生産財の持續的産出は又、享

た財貨の生産の持續的過量と共に其の價格は下降せしめられなければならず、斯くて叉、資本利潤の損失を來さし 存せしめられてゐる。賃銀が増加せしめられた資本集積の結果として騰貴したとしても、猶ほ、勞働者に充てられ に存するが故である。夫れ故に、資本形成の増加は漸次之れに伴つて直接消費を増加することがなかつたならば、 生産的企業の收利力を再び減殺するに至る可きである。洵に新たなる資本投下の收益能力は消費財の販賣關係に依 局公私の經濟に於ける直接消費によつて決定せられなければならぬ。蓋し、生産財消費の目的は單に消費財の産出 其の生産物の價格に依存し、生産物の價格は叉、其の消費の大小に依存する。然るにあらゆる生産的消費の高は結 新資本として投入せらるゝ高が愈々多きを加へるならば、そは益々生産階級の所得形成を大ならしむ可きではある 總べての財貨の享樂が抑制せられ、 なる機械が据え附けられるのである。道般の推論は論理的に正しいものとせられてゐる。然しながら、妓に注意す 勞働及び富を生産する其の他の用具の力は、是れ等のものく産物を更らに其れ以上の生産の手段として使用するに つて無限に增加せしめられ得可きである。(『三田學會雜誌』第三十七卷第四號所載抽稿『生産經濟思想史概觀』二 然しながら、 唯り本然の池費奢侈的のみならず、資本主義的カルヴァン主義の立場からして餘冗旦つ不要と看做さる 斯くの如き傾向は決して永く持續し得ざるの一事である。生産者及び勞働者所得の永續的の高は 而して營利的目的に使用し得可き購買力に於ける年々の過剰が愈々大と爲り、

古典的經濟學者ジャン・パチィスト・セイ、ジェームズ・ミル及びリカードオ等は孰れる一般的生産過多の不可能を ウィリアム・スペンスの如きは旣述の國民的富の上に及ぼす濫費と鄙吝の相異れる影響に關するスミス

を主張しようとした観があると說いて居つたのであるが、斯くの如き意見に對して、ジェームズ・ミルは「貨物の生 産は生産せらると商品に對して市場を生ぜしめ、又、之れを生ぜしめる唯一、普遍の原因である」と云ふ簡單明瞭 なる定則を表明した。(『經濟學史』上卷四二二百參照)。 彼れの議論は、新資本が何人も購入することなかる可き財貨の製造に有利に使用せられ得ること

を超過するものがあつたの。ある。一半八百十八年、新たなる恐慌は新たなる暴動を喚起して再び英國市場を麻痺 生産を食い湿さんとする限界のない力の如くに消費を表示するを以つて近代經濟學者の大部分の陷つた大誤謬であ Economy.の一項に於いて、生産過剰の結果として最早消費者を看出すことがないやうになつた其の瞬間から、財富 との出來なかつた在荷を蓄積するの止むなき狀態に在つたが、平和の克服に際して、 は其の財富たる所以を失ふものであると云 ぶ結論に到達した。彼れは其の翌十九年に出版せられた。Nouveaux **治しくは欲望の種類によつて決定せらるくものではなくして、全く所得に依つで定まるものである。卽ち、** れは限定せられてゐる。(ibid., p. 80.)。 ると論じた。(ibid., 1819, t. i, p. 78.)。 せしめた。シモンド・ジ・シスモンディは、先づ彼れが一千八百十八年の Edinburgh Encyclopædia に寄せた Political 一千八百十五年の恐慌は英國市場を震蕩し、多數の勞働者をして失業の境涯に陷らしめ、軈がて暴動と機械破壊 を惹き起すに至らしめた。そは英國製造業者の誤算から生じたものであつて、彼れ等は戰時を通じて輸出すると 例せるものである。而して、 d'Économie politique, ou de la richesse dans ses rapports avec la population. に於いて、不斷に無窮の 勞働に對する需要は、リカードオ、セイ及び彼れ等の學徒の主張するが如く、生産 唯り無限なるは奢侈の目的物の消費であつて、本原的必要の對象物の其 彼れの意見に據れば、 賃銀は消費に起因せる勞働に對する需要の多寡に 其の供給は遙かに大陸の需要

デイは其の恐慌の概念を、一般的生産過多即ち人民が可能的に消費し得る所のものを超えての生産ではなく、一般 る可き資源を涸渇せしめるかしたならは、消費は直ちに終止す可きであらう。('bid_ t.i, p. 65.)。 斯くてシスモン りも多くを之れに對して支排ぶの已むなきに至るか、若しくは彼れが現在に對すると等しく將來に對しても充分な の者が消費し得る所のもの、若しくは社會が現實に消費する所のものく尺度である。蓋し、消費者が彼れの所得よ る箇人の所得は彼れの消費し得る所のもの

る民度である。

社會所得を形成する

總べての者の所得の

全總額は總べて 於いて、生産は其の生産に利用し得可き社會所得によつて限定せられざるを得ずと做すの結論に到達した。あらゆ すらも存するのである。(ibid., p. 336.)。彼れは更らに一干八百三十六年の Lictudes sur l'Économie politique. 益々外國市場に其の産物の他の販路を求めざるを得ざるに至る。 ぎない一百人の著しく富裕の程度の少ない製造業者の其れよりも國民に取つては價値少なぎものである」。(ibid., p. 「都市に於いては嚴密なる必要限度に其の生活を縮められた一千人の勞働者を其の命令の下に勞働せしめ て ゐる一 **ぅ。資本家は奢侈品に對してより大なる需要を行ふであらうが、そは收縮した他の需要を填補することは出來ね。** 作者の購買力は更らに一層減少せしめられる。所有階級の所得のみ唯り増加しつくあつて、從つて又、日常生活の 人の百萬長者の玉場主の消費は、其の各々が、著しく貧困の程度の少ない十人の勞働者を夫々勞働せしめてゐるに過 必要物に對する正規の需要に代つて、 は其の資力に應じて購買するものであつて、決して其の欲望に從つて之れを行ふものではない。 總べての生産物を吸收するに不充分である。機械の發達と共に、週期的失業は生ぜしめられて、是れに由つて勞 少數の土地所有者の間に資産が集中するが爲めに、國內市場は絕えず益々縮小せられ、而して産業は絕えず 更らに優雅なる物品に對する需要が増加する。需要は不齊に増加するであら 而も外國市場に在つては更らに大なる激變の虞れ 勞作者の需型は常

來る所のもの以上に出でた生産を意味する一般的生産過多の理論に基かしめたのである。 的有效需要を超えての生産、詳言すれば、人民が其の常に縮小せられつくある取得の手段を以つて支拂ふことの出

勞働に比較して其の價値下落し、利潤をして殆んど皆無となる迄に低下せしめ、而して暫くの間はより以上の生産 數量が市場に存することが明かであらう。然るに、全體として見た勞働者の數は同一であり、又、地主及び資本家 あつた。彼れに従へば、貨物は常に貨物と交換せられると云ふことは、事實上、斷じて眞にない。貨物の大なる 荷過多(Mut)なる名群によつて意味せらる人所のものである。(Principles of Political Economy considered with の孰れかと比較して、供給の過多から價値に於いて下降するに等しい。想定せられた場合に於いては、其の國の不 交換せらる可き勞働と比較しての過剰から價値に於いて下降し得ることは、恰も或る一貨物が、勞働若しくは貨幣 view to their practical application, 1820, pp. 353-354. 英國古典學派中に在つて獨りマルサスは此の一般的生産過多の理論に於いてシスモンディと全然一致するもの 間に於ける消費の爲めに購入する力及び意志は假定によつで減少せしめられてゐるのであるから、 産的勞働者が、資本の蓄積に由つて生産的勞働者に轉換せしめられたるに基き、總 分は、生産的か若しくは不生産的かの勞働に對して直接に交換せられる。而して、斯くの如き貨物の高が、其の 而も、斯くの如きは正確に、此の場合に於いては、明かに一般的 あつて部分的に非さる在 ての種類の貨物の非常なる 諸貨物は必然

of the House of Commons on the Poor Laws, 1818. に於いて、其の當時英國に生じついある窮厄の直接原因を以 Committee of the Association for the Relief of the Manu acturing and Labouring Poor, laid before the Committre 斯くの如き理論は义多數の社會主義者の抱懐する所となつた。 夙にロバート・オーエンは其の Report to

る。而して、そは叉、カール・マルクスによつて展開せしめられたるものと一定の類似を有する。 「消費が生産と足並を揃へしめられ得可き」ととを希望した。(New View of Society, op. cit., p. 253.)。 而して、 11十年〇 Report to the County of Lanark of a plan for relieving public discress and removing ciscontent, by 英國の産業は充分に繁忙ならしめられたのであるが、而も不和の到來と共に、勞働の産物は最早其の市場を看出し New View of Society and Other Writings, ed. by G. D. H. Cole, 1927, p. 156.) 一千八百二十七年の Die Forderungen der arbeitenden Klassen. に發して同五十年以後に續刊せられた Sociale ない生産組合に由る新社會の建造と勞働時間を基礎とせる勞働券を以つて交換の媒介物たらしむること に 依 つ て つて、歐米の工業界に於ける機械裝置の一般的導入によつて惹起せられたる人的勞働の價值低落に在りと做し、(^ ル・ロードベルトスの恐慌理論は又、前述せるシスモンディの聲を反響せしめたるに過ぎざるの觀あるも permanent productive employment to the pour and working classes. に於いて、利潤を目的とすることの von Kirchmann. に至つて完成を見た「賃銀配分遞落法則」(Gesetz der fallenden Lohnquote)に基くカ 從つて其の結果として需要の減小を來したることを說いた。(ibid., p. 158.)。次いで、 而して世界の收入は其の效果に於いて斯くも巨大なる力が生産せる所のものを購入するに不充 而して、 彼れは一千八

氣の期間に於いて、大所得を收受する階級の間に於いては、消費の因襲的習慣は所得の增進に比例して膨脹すると 約駾」(savings theory)が存する。"彼れは景氣循環を以つて所得の分配に於ける不平等の間接の結果と觀る。好景 消費過少理論は多くの變種を生じた。輓近に於ける其の最も顯著なるもの」一にホブソン(J. A. Hobson)の「節 節約は實際上自動的過程となる。斯くの如き巨大なる高の投資は、購買力の增進を超過せる財貨を生産す

が其の General Theory of Employment, Interest and Money. Credit-Powerand Democracy, 1921. に於いて、生産物を拉し去るに足る貨幣が斷じて消費者の手中に入ることなしと 於いて、又、Road to Plenty, 1928. に於いて、節約は近代の市場經濟に於ける均衡の攪亂を來さしめると做すの原 と一定の聯合を有するもの 説き、通貨の高を増加するが爲めに「社會的信用」、social credit)の計畵を表明した。ケインズ(John Maynard Keynes) 理を打ち建てんとし、蘇蘭の技師ダグラス(Mojor C. H. Douglas)は、其の の原因に對する説明は、彼れの The Industrial System, an inquiry into earned and unearned income, 1909. の第 る可き充分なる購買力が存するでとがない。價格は下落し、 ないのであるが、 るの裝置及び設備に於ける増加を招來する。暫くの間は斯くの如き過程の結果として何等不良なる影響も認められ **消費は漸次生産に追ひ付き、有利なる價格を回復せしめる。 斯くて又、 金過程は繰り返され** 八章に於いて畧述せられ、次いで、The Economics of Unemployment 1922. に於いて更らに詳細に解明せられて 米國人フォスクー(William T. Foster)及びキャッチングズ(Waddill Catchings)は其の共著 Proft. 1925. に 増加せる生産物が工場から市場へ過大に流入し始めると共に、消費者の手中には生産物を拉し去 大所得は減少して過大節約は止む。是に於いて乎、 中に於いて提唱せる所の理論も亦消費過少の觀念 Economic Dem cracy, 1920. 及び 。遺般の經濟的循環

八

und eine rechte Societatem' und Abnehmens der Städte, Länder und Republicken, in specie wie ein Land volkreich und nahrhaft zu machen 夙じべずヒャー(Johann Joachim Becher)は其の Politischer Discurs von den-eigentlichen Ursachen des Civilem zu bringen, 1667. に於いてい 消費若しくは販賣(Consumption, debit, oder Auf-

生産、分配及び交換條件を多く論ぜんとしたのである。スミス自身の大箸中には「消費」の題目を有する章節は一も 存することがなかつた。消費學說は初期の經濟學者によつで閑却せられた。唯だ例外と觀る可きものは、價値に對 る限りに於ける外は、之れを以つて個人的事項と看做し、而して、斯くの如き終局に導く社會的段階たる經濟財の vol. ii, p. 159-)。然しながら、經濟學が成立するに及んで、大多數の經濟學者は、消費の慣習が富の生産に影響す 證せんと企つるは不理なるの觀がある」と稱して居つた。 に必要なる可き限りに於いてのみ顧慮せらる可きものである。此の定則は完全に自明なるものであつて、之れを立 スは「消費はあらゆる生産の唯一の目的及び所期である、而して生産者の利益は單に消費者の其れを増進するが爲め Verschleiss)は商工農の三生産的階級を結合し、繁築を齎すが爲めに最も必要であると主張し、 伯あるのみであった。(前掲『古版西洋經濟書解題』四六二十 需要の彈力性の可變的度位の結果を細論して、消費の經濟的意義を論述せるローグデー (Wealth of Nations, ed. Edwin Cannan, 4th ed., 1925, 一四六四頁參照)。 而してアダ

衰亡, d'économie politique, ou simple exposition de la manière dont se forment, se distribuent, et se consomment les 産」及び「分配」と並んで、經濟學の三部門。一たらしめた。彼れは心れを De la consommation と題せしめて、(Fraite て「消費に就い。」(De la concommation)論じ,而して一千八百十四年の再版以後に於いては,是れを以つて『生 ある。スミスは「消費」なる語を使用しながらも、 佛のジャン・パチィスト・セーは其の Fraité d'économie politique, 1803.の第五編(後版に於いては第三編)に於い 又醫學上の用語としては肺結核を意味するものであり、 之れを consomption とは呼ばなかつた。 consomption 例に據つて之れに定義を與へることがなかったのであるが、セ consommation は第一に成就、完結、終局を指す語 は消滅、 滅却、

I' ntilité des choses.)「物の價値を無くする」(perdre leur valeur) と云ふは其の意味が絕對に同一なる表現である。 ibid., ed. 1803, t ii, p. 338-339.)° は生産が物質の創造ではなくしてい | 效用の破壞 (destruction d'utilité) であると定義した。「消費する」 (con ommer) 「物の效用を破壞する」 (détruire 效用の創造(création d'utilité)であると等し 消費は物質の破壊に非ずし

1840-1841. の著者であるロッシ伯(Pellegrino Luigi Edoardo Rossi)は、其の先任者の經濟學三部門中に於ける消費 倫理學及び家事經濟學に屬し、生産的消費、即ち換言すれば、資本の使用は寧ろ生産論中に論述せらる可きもので 論を以つて經濟學に關係のないものであると看做し、之れが個人の不生産的消費に關する範圍内に於いては衞生學 英國に於いては、ジェームズ・ミルは彼れの Elements of Political Economy, 1831, を四部門に分ち、其の第四章 り、彼れが不生産的公消費に縮少した課稅の問題は分配論の條下に取り扱はれ得るものと觀たのである。 然るに、國立高等學院(Collége de France)に於けるセーの經濟學講座の後繼者であり、Cours d'économie politique

1807. 以來の需要供給平衡論を展開せしめた。(昭和十二年版拙著『經濟學史』上卷四二一―四二四頁参照)。然しな théorie des débouches)を生産論中に於いて述べたのであるが、(昭和四年版拙著「經濟學史」「一三一一四頁參照) がら、彼れの消費論の大部分は租税論に割かれて居つた。課税は實に私消費能力に影響を及ぼすものとして、 生産物の購入は、他のもの、價値に依る以外に行はるゝことを得ざるものであると云ふ彼れの「販路論」(Des 於いて、消費を規制する諸法則は何であるかを論じた。セーは、生産物に對して販路を開くものは生産であり、 Aズ・ミルは消費論中に於いて「消費は生産と範圍を共にすること」を論じて、其の Commerce て基礎を與ふるものとして壓々消費論中に包含せられる傾向があつたのである。

Political Economy,-1848. 中には遂に消費論なる部門は看出さる」ことがなかつた。、 Economy 1844, p. 132n.) 認めることがなかつた。是れ等のものは人間の享樂の諸法則以外の何物でもあり得ない。經濟學者は其れ自體の爲 響するかを研究するの目的を以つて之れを論じたのである。(Essays on Some Unsettled 取り扱ふ可き何物をも有せざるものである。彼れは一特殊科學の主題としての富の消費に闘する如何なる法則をも た。彼れに從へば、經濟學は富の消費の考察が すると做して、 めに消費を取り扱へること曾つてなく、常に、 然るにジェト 其の間に幾分の矛盾を包有せるが如くである。(ibid., p. 138.)。而して、 而も猶ほ、ミルは、經濟學は専ら富の取得及び消費に從事するものとして人類を考察 如何なる態様に於いて相異れる消費の種類が富の生産及び分配に影 、生産の其れから、又は分配の其れから不可離である以上に之れを は前記ロッ シとは聊か相違せる理由に基いて消費論を除外し 彼れの大者 Principles of Questions of Political

九

費に定義して、富の或る一定部分の全般的著しくは部分的破壞であると做した。(Definitions in Political Economy 參照)。マカラックは消費を以つて物質の消費若しくは絕滅を意味することなく。

單に貨物をして有用且つ願はしき 彼れの傳統を承け繼いで「消費するは物の效用又は價値を全部若しくは一部破壞するに在る」と說いた。(『三田學會 ものたらしむる性質の消費若しくは絶滅であると解した。(前掲『經濟學史』上卷四五五頁参照)。 志。第三十六卷第九號所載抽稿。古版經濟書解題 が消費を以つて物の效用を破壊し、 經濟學者等の間には又、消費の本質として財貨の使用を强調する者と價値の喪失に重きを置く者とを出した。セ 物の價値を無くするに在りと観たことは前述の如くである。ディ・ボアローは 一千八百十一年版ディ・ポテロー著經濟學學習の手引し七六頁 マルサスも亦、消

Economy, ed. 1836、vol. i, pp. 118-20, 此の書は Thoughts on Political Economy.と題して一千八百二十年に發兌 ならば、 そは利用せらる」の目的を以つて生産せられる。食料及び燃料の如き、是れ等のものを使用するの行爲其の者に於 ものとして用ひられて來たのである。シィニィオアは言ふ、若し消費が總べての生産の目的であることが真である る」ことは眞實であるが、而も吾人はそが破壞せらる」が爲めに生産せらる」ことを承認することを得すと做した。 金銀の器皿は之れを使用せんでとを意圖する者によつて購入せらるゝの時、消費せらるゝと稱せられるのであるが 決定的特徴であつて、 は思惟した。(Political Economy, 3rd ed., 1854, p. 54.)。ヘルマンの如き獨逸經濟學者に取つでも、 句が「消費する」と云ふ其れに代らしめらる」ことが出來たならば、經濟學の術語に於ける一進步であらう、 いて滅失する底のものが最も肝要なる貨物であるが故に、消費なる語は普く何等かの物を利用することを表現する そは敷時代の間續いて役立つことを得るのである」と附言しなければならなかつた。 247.) 然るに、初めて米國に於いて正式に經濟學を論述したグニエル・レ 一家屋の居住者は其の消費者と稱せられなければならぬが、而も彼れを其の破壞者と呼ぶことは奇妙であ 同二十三年の再版に於いて改題せられた)。シィニィオアは、生産せらるゝ殆んど總べてのものが破壞せら そは住はれなければ遙かに速かに破壞せらる可きことが慥かであるが故である。「使用する」と云ふ餅 價値喪失は然るものではなかつた。(Staatswirthschaftliche Untersuchungen, 1832, S. 328-サンド (Daniel Raymond)せて (The Elements of Rollitical 使用は消費の と彼れ

つて經濟學の科學的基礎たる可きものと看做し、 數年間獨逸に滯在し、 特にヘルマンに負ふ所のあつたベシフィールド 而して、 消費理論の第一命題を以つて、 (Thomas C. Banfield) 等級に於けるあら は消費の理論を以 ゆる

p. 11.)。最初の欲望としての食料はそが如何なる鱶性を費すことあるも、第一に滿足せられなければならぬ。食料 免ず擴大しつゝある願望の連系が喚起せられる。(ibid, p. 60.)。 が豐富となるに比例して他の諸欲望は其の重要性を高め、而して其の種々なる壓迫の程度に從つて分類せらるゝ絕 explained in a course of lectures, delivered in the University of Cambridge in Easter Term 1844, 2nd ed, 1848 より低き欲望の滿足はより高き性格の願望を創造すると云ふに在りと做した。 (The Organization of

op. cit, p. 47.)。效用の程度は貨物の數量と共に變化し、而して結局其の數量の增加するに連れて減少する。(ibid. 質ではなくして、寧ろ人間の所要に對する其の關係から發生する諸物の情況であると稱せらる可きである。(Theory, に之れに就いて述べんとした。(Pòlitical Economy, 2nd ed., 1878, p. 11.)。彼れを以つて觀れば、效用は內在的性 經濟學に於いては富の生産及び分配に先き立つて消費を論ず可きものと做し、 る」と云ふ彼れの學說を其の論旨の關鍵として採用し、其の最も特色ある諸學說を明確に效用の理論に基かしめ、而 らなければならぬ旨を主張した者はジェヴォンズであつた。消費論を經濟學より排除せんとせるジョン・スチュア **い貯蓄を生ぜしむるものであると做して、自由貿易を擁護したのであるが「消費の理論は經濟學の科學的基礎であ** て此の效用の理論を以つて消費の理論と看做し、且つ明白に、經濟學ソ理論は消費の正確なる理論を以つて始ま ・ミルの主張は玆に排除せられた。 交換の比率は效用の最終程度によつて決定せられる。 用し得可き貨物の數量の效用最終程度の比率の反數なる可きである。(ibid., p. 103.)。 ールドは一層緊切なる欲望を滿足するの資料が低廉となるは必然第二のものを滿足するが爲めに費さる (The Theory of Political Economy, 2nd ed., 1879, pp. 42-46.)。彼れは 總べて二貨物の交換の比率は、 富の本質を叙したる後に於いて直ち 交換終了後に於い

脊費經濟思想史概期

つて、彼れは之れを其の父オーギュスト・ウルラスに倣つて「稀少性」(rareté)と名附けた。效用の程度は敗量の増加 (l'intensité du dernier besoin) と稱した所のものは、即ちジェヴォンズの所謂「效用の最終程度」に等しいものであ édition definitive, 1926, p. 101.)° の滿足の考察を以つて其の交換價値學說の基礎たらしめたのでめる。彼れが「滿足せしめらる」最後の欲望の强度し に連れて減少する。蓋し、貨物の連續的單 交換價値は「稀少性」に比例する。 (Elements d'économie politique pure ou théorie de la richesse 3のレオン・ワルラスも亦、事實上ジェヴォ 位を以つて満足せしめらるく欲望は漸次其の重要性を減ずるに至るが故 ンズと同一の見地に立ち、消費の理論を喚起す可き所要 sociale,

過程を消費者の選擇に從屬せしめた。彼れ等は消費者の選擇を說明するに際して效用遞減及び限界效用均等の精巧 るら總べての財貨の限界效用が恰も等しい際に到達せられる。斯くて、 の消費の爲めに財貨を選擇するに際して、先づ吾人が選擇す可き諸貨物の限界效用を考察する。極致は、消費せら なる理論を打ち建てる。消費の術は、吾人が一物の消費を止めて、 消費者の心胸内に於ける主観的評價過程に對して市場價値決定に於ける原因的優位を與へ、 ワルラスは「豨少性」を以つて價格の決定原因たらしめるものではあつたが、而も彼れの中心學說を構成するもの 一般的經濟均衡理論であつた。然るに、之れと殆んど時を同じうして發生を見た心理學派は、財貨の購入者卽ち 他物に移るの時機を知るに存する。吾人は吾人 消費の科學的理論が構成せられる。 而して生産及び交換の

採用せられた「消費の理論は經濟學の科學的基礎である」と云ふ學説を真なりとする者ではなかつた。蓋し、 た於ける主たる關心事の多くは努力及び活動の科學から借用せらるよが故である。 フレッド・マーシャルの如き綜合主義者は、彼のパンラィールドによつて提唱せられ、ジェヴォンズによつて (Principles of Economics 欲望の

いて、需要、供給及び價値の一般的關係を取扱はんとした。 る殆んど總べての英國書に在つて大なる地位を與へられた生産論に相應する生産要素論に充て、軈がて第五編に て需要及び消費の研究と做し、第四編を以つて、 vol-1.5th ed-p. 90.)。而も猶ほ、彼れは其の大著の第三編に於いて一欲望と其の滿足に就いて」論じ、是れを以つ 其の一般的性質に於いて、過去二世代を通じて一般經濟學に關す

ミルは諸貨物が價格に於ける一定の變化と關聯せる購入せらる」數量に於ける變化の高に於いて甚しく相違すると も之れに對して支拂はんとするものであるならば、三分の一の不足は價格を二倍、三倍若しくは四倍に引き上げる **とを認めた。ミルは曰く「若し其の物品が生活の必要品であつて、人々は放棄するよりも寧ろ如何なる價格に於いて** を以つて其の種々なる相違に從つて力の程度相異れる發條によつて表示せらる可きものと觀たる時、彼れは是れに 明瞭ならしめることがなかつた。(前掲『重商主義經濟學說研究』五六六一五六七頁参照)。ローグデールは前述の如 由つて彈力性を意味して居つた。(前掲『古版西洋經濟書解題』六四一頁参照)。マルサス及びジョン・スチュアート・ する其れは多少の程度に於いて彈力性を有することを會得せるが如くではあるが、而も彼れの言辭は之れを充分に 感知せられては居つたが、而も未だ正確に體得せられ表現せらるく所がなかつたのである。ジョン・ロックは生活 う。種々なる貨物の間に於ける需要の彈力性の相違は固より彼れ以前に於いて旣に一定の論者によつて或る程度迄 の絕對必要品と多少の程度に於いて有用なる物件とを區別し、而して前者に對する需要は彈力性に乏しく、後者に對 、 需要の弾力性が貨物の本質に依存するととを知悉して居つた。ウィリアム•フォスター•ロイドが 消費論に對するマーシャルの密興中特に擧示せらる可きものは需要の彈力性及び消費者餘剩に關するものであら 彼れは又、供給が需要を超過した際には食料品の如きものに在つては、既に十分 相異れる欲望

Economy, vol. 1, 1848, pp. 528, 529じ。又白く「或る物は其の過剰若しくは不足の其れよりも大なる比率に於いて は豐作によつて、生じた餘分の供給の極めて 小なる部分を拉し去るに過ぎ ず と 做した。(Principles of Political に之れを有する者は、其の低廉なるが爲めにより多くを要求することなぎを以つて低廉によつで生じた消費の増加 de la théorie des richesses, 1838. に於いて、之れに正確なる數學的形態を與へた。然しながら、之れに對して「需 ギュスタン・クールノオは彈力性の原理を堅く把握し 影響せらる」の常であり の彈力性」なる術語を與へ、 他は小なる比率に於いて影響せらる」の常である」云々と。 經濟學者をして之れを熟知するに至らしめたものはマーシャルである。 而してい 其C Recherches sur les principes (ibid., vol. ii, p. 16.)。 木 mathématiques

産過多は農業階級に取つて破滅的なる低價格を現出せしめたのである。斯くの如き價格の不安定を発れんとするの 物件の價格が購買者の一階級の資力に對して相對的に甚だ高い際には、而してそれが甚だ らるら高の増加することが多いか少いか、 力性は消費者が價格の下落に於いて有する利益、並びに課稅、 彼れに從へば、一市場に於ける需要の彈力性(elasticity of demand)は、價格に於ける一定の下落に對して需要せ 、吾人が高水準及び低水準と呼び得る所のものく間に介在する價格に對しては遙かにより大であることを主限 一財貨に對する需要の彈力性は其の生産と關聯せる危険の上に重要なる關係を有する。需要の彈力性大なる 大岩しくは小である。(Principles of Economics, vol. i: 1890, p. 162.)。彼れは、 此の點に於いて後版には若干の修正が施されてゐる。cf., 5th. ed., 1907, p. 103.)。 **弾力性小なるは價格の不安定を意味する。前世界大戦後に於ける農産物の比較的小なる生** 叉, 價格に於ける一定の昻騰に對して減少することが多いか少いかに從 獎勵金及び獨占の結果を決定する主要なる要素で 概して需要の弾力性は一 い際には再び、 需要の 小であ

念は種々なる方法を以つてする統制を喚起する主要なる動機となるのである。

損害に比例して頗る小なる收入を國家に齎すことある可きである消費者餘剩の概念は又、無拘束なる競爭によつて る場合に限られるととを指摘する。(Principles, ed. 1890, op. cit., pp. 178-179.)。 らる」諸價格が購入者等の平均的富の相等しき(固より貨幣の一般購買力も亦)諸市場に於いて支拂はるく其れであ られると看做さるゝことを得ない。是に於いて乎、マーシャルは、消費者レントの見積の實際的有用 足の不等なる高を表示することがあるであらう。特に ぬ支出以上に出でた彼れの購入する貨物の全高の彼れに對する價値の超過分である。(ibid., p. 23.)。同 よつて相異れる購入者に與べらるよ滿足の高は甚しく相違することある可きが故に、一定の消費者レントは餘剰滿 上ぐるが爲めに必然生ぜしめらる」支出を借地農に補償するが爲めに恰も要せらるゝ高以上に出でた土地の全産物 の價値の超過分に適用せられる。同様に消費者のレント 1879. p. 20.)。「消費者のレント」なる名辭は類推的に使用せられる。「地代」卽ち「地主のレント」なる名辭は産物を 對する滿足の「經濟的尺度」である。 る。或る人が之れなくして濟ますよりも寧ろ何等かの満足に對して恰も甘んじて支拂はんとする所のものが彼れ する價値以上に其の貨物の購入から取得する超過若しくは餘剰滿足の高を表示するが爲めに導入せら の概念が質に實際的價値を有することが主張せられる。 消費者のレント」(consumers' rent)なる語は同じくマ 而して他が主として貧民によつて消費せらるゝ際には、是れ等のものゝ貨幣尺度によつて近似的にすら表示せ (The Pure Theory 、二貨物の效用は、其の一が主として富者によつて消費せら は、 of (Domestic) Values, printed 或る租税の賦課は是れに山つて消費者に蒙らしめらる 或る人が一貨物を取得するが爲めに行はなければなら ルによつて、 或る人が其の支拂ふ貨 而も猶低合成的消費者貨幣レ for private circulation in 性は、考察せ れた術語で 幣の彼れに ... の 投費に

最大限の社會的利益の原理と看做された「自由放任」は啻だに實際的のみならず、 取得せらるト利益の最大限が必ず つては倒壞す可きことが論證せられたのである。 しも取得し得る最大可能の利益に非ざることを立證するに資す可きものである。 理論的にも亦、一定事實の下に在

+

所大ならんとするの何向が存して居つた。古典的經濟學者は消費の自由を宣言した。アグム・スミスは、奢侈禁止法 Nationalökonomie, ein Hand- und Lesebuch für Geschäftsmänner und Studierende, 1854, S. 431.)° とを企圖するは國王及び大臣に在つて此の上もない筋違ひであり僣越であると考ふるの極端に馳せた。スミスに從 を有しては居つたが、 へば、彼れ等は彼れ等自身常に、而して何等の例外もなく、社會に於ける最大なる浪費者である。「彼れ等をして ッシャーの如きも、少くとも、強健にして繁榮を極めつくある國民は斯くの如き引繩を要することなきものと思 近世に入つても猶ほ種々なる社會階級の間に於ける輿論は依然として消費の項目及び方法に對して著大たる影響 した。切除せらる可き瘤の存する際には、國民は自ら之れに對して準備を行ふのである。(Die Grundlagen der れ等自身の放肆が國家を滅亡せしめることがないならば、彼れ等の臣民の其れは決して國家を滅亡せしめること れ等自己の費用を深く注意せしめよ、然らば、彼れ等は安んじて私人民の費用を彼れ等に委するを得可きである。 **岩しくは外國奢侈品の輸入を禁止するに依つて、私人民の經濟を監視し而して彼れ等の經費を抑制せんと** 而も、進步的社會に於いては交易及び生産と等しく消費も亦次第に「自由放任」に委せらるよ 獨逸歴史學派の長老ウィルヘルム・

然しながら、其の後に至つて先づ交易及び生産の方面に現れた反動は軈がて消費の方面にも及ぶことしなつた。

として課税によつて間接に消費の上に影響を及ぼすものである。一定の租税は特に其の社會的影響を目的として提 なる自由主義的な社會に於いても政府が其の人民の消費の上に直接若しくは間接の制限を加へざるものは存しなか 國家は治安及び良俗維持並びに社會衞生其の他の見地から屢々消費の方面に干渉するの必要に驅られた。 唱せられる。 判断すること能はざる場合に於いて其の管理が正常視せられなければならぬことが主張せられる。 多少の程度に於いて奢侈禁止法的性質を具有する。 現在、一定の奢侈品に對して行はれつくある課稅は多くは國庫收入の目的を以つてするものではある 殊に消費者自身が自己の眞利害の最良なる判官たることなく、又消費せらるゝ物品の眞價値を正し 政府は又、主 凡そ如何

必要缺く可からざる消費を危ふからしむ可きではない。而して文で消費の爲めに有用なる財貨の現存高から最大可能 少することなくして費用を減少し得る場合の存することを認めなけ 生産せられ得る財貨を選擇することも亦重要である。吾人は吾人の欲望の單なる變更に由つて何等消費の快感を減 なる満足を取得することが重要であると等しく・ が存するが故に、少數の富裕者をして其の奢侈を擅らにし、 ければならぬ罪悪であるとは看做さない迄も、 今日の生産には其の方向を誤つたものが甚だ多い。 しめらるとことがなかつたのであるが、 消費の過程が國民の福祉に及ぼす影響は常に考察の對象とならなければならぬ。固より古い奢侈禁止法は復活せ トリィ・ウイザース (Hardey Withers)が其の Poverty and Waste, 1914-中に脱くが如く、 而も一部の經濟學者は奢侈を以つて縱令ひ法律の力に依つて禁止せられな 少くとも經濟學の名に於いて痛撃を加へられなければなられもので 一定の満足を取得するが爲めに努力の最小可能なる投費を以つて 現在存在しつ」ある財貨及び利用し得る生産力には一定の限度 必要以上の欲望を滿足せしむるが爲めに、多數民衆の ればならぬ。 欲望の變更は往々にして恰も生産

消費經濟思想史概即

金銭上の動機のみによつて誘導せらるしことのない趣味とを包蔵するものと宣言せられた。 論は又、國民主義的、人道主義的及び審美的角度よりする批判を喚起した。福利は生産物の品質的優秀と、單なる方法の變更と等しく有效に經濟的福利を增加することある可きである。經濟的企畵の自由に基礎を置いた福利の理

şubsistances, salaires, population, 1855.)。佛蘭西の社會改革家ル・プレー(Pierre Guillaume Frédéric Le Play)は、 from the conquest to the present period. 三卷は一千七百九十七年に出版せられてゐる。此の先驅者の事業は第十 行业られた白耳義政府最初の生活費調査を編纂せしめた。(Budgets économiques des classes ouvrières en Belgique, (Lambert Adolphe Quetelet)及び其の他中央統計委員會を構成する人々によつて計畵せられ一千八百五十五年に刊 的快感を與ふるに過ぎざる物件と體力及び精神力を錬成するに資する物件との間に、又低級なる欲望を滿足せし 而して其の生計の資源を解析するのみでなく、復式簿配の一種に於いて其の日々の生活を概括し、經費の各項目を 勞働階級に屬する各個の家族を取り扱へるモソグラフを草し、單に其の歷史を詳細に說き、其の生活の方法を叙し、 九世紀中葉の統計學者を鼓舞し、白耳義の社會統計學者デュックペシオ (Édouard Ducpètiaux)をしてケナレエ せらる可きであつた。彼れの大著・The State of the Poor:or, An History of the Labouring Classes in England, る努力が行はれた。夙に英國勞働階級の生活狀態を調査せんとせる者にハリソン(William Harrison)、ペチィ、カ るものと高等なる欲望を刺戟し養成するものとの間に分配する割合を調査せんとする極めて重要にして而も困難な 慎重に収入と對比均衡せしめんでとを企圖した。 消費者によって選擇せられる物品の種類は彼れの所得の高に依存する。種々なる社會階級が其の投費を、單に現在 アーサー・ヤング及びマルサス等が居つたが、殊にイーヅン(Sir Frederic Morton Eden)の業績が記憶 彼れは一千八百五十五年に Les Ouvriers européens. の題下に斯 红

第に其の範圍を擴張しなければならなかつたのである。 於いて乎、特に教育、交通、休養、娛樂、 る目的に對する經費の割合を示す表を作成し、消費の研究に統計を使用するの效果多きことを明かにした。而して 九五頁參照)。斯くの如き裏は勞働階級が女化的費用を支出する割合の極めて尠少なることを示すものである,是に 會層に處する家族の生計費に就いて精密なる研究を行ひ、一千八百五十七年に於ける各階級に屬する家族の種々な から成る)。次いで、獨逸の統計學者エシゲル(Christian Lorenz Ernst Engel)は白耳義及びザークセンに於ける各社 くの如きモノグラフを一卷に纂輯して出版した。(一干八百七十七年から九年に亙つて發表せられた第二 版は六卷 給付能力の總括に依つて各個人に消費の機會を與へる「共同經濟的消費」(gemeinwirtschaftl che Konsum) して所謂「エンゲルの法則」なるものを引き出したのである。(昭和十四年版拙著『經濟原論』九三十 保健及び衞生等の方面に於いて、各個人の所得高に基かずして、多數人 が次

種々なる貨物の數量及び相異なる人民の間に於ける、 ける所得及び富の分配に關する最良なる證左を供給する?斯くて、價格及び所得の一般水準に對して消費せらるよ る變動等の問題が經驗的經濟學者の注意を喚起した。 らるく所が大であるから、 消費統計は人民の大多數に就き其の物質的生活の有用 若しくは相異なる時代に於ける同一國民の種々なる物品の各箇宛消費に關する統計は屢々種々なる階級間に於 軈がて又、 其れ自體國富分配の態様に闘する最良の徴證たるものである。 叉相異なる時期に於ける是れ等のものく數量及び品質に於け なる輪郭を與くるものである。消費は分配によつて決定せ 相異なる國民

戦争時に於ける國民の消費は、 或ひは不充分なる物資の公平なる配給を確保せんとする國家的要請によって法定せられる所が極めて多い。 各個人夫々の自由選擇に依らずして、 或ひは戰爭目的達成に必要なる資源を管理

消費經濟思想史概觀

ハー・サン

れ等の目的を達成するが爲めて直接若しくは間接の消費統制が喚起せられる。 是れ等統制の結果が國民の

生活水準に及ぼす影響が又、考察の對象とならなければならぬ。

原單位計算制度に關する若干の考察

小高泰雄

價は、國民經濟全體を包含する物の循環ととれに交流する貨幣の循環との基本的結節點をなすものである。せの結 より比較檢討し、との根底の上に貨幣價値的評價の全構想を組立てゐるのである。との企業に於ける貸幣價値的評 物的財の消耗度、人的用役の生産参加度の測定であり、經營者はあらゆる製品及び行程上の技術的企畫をかずる面 はらしむることは大なる誤謬を招き易い。何となれば總價値の中に總での詳細なる事實は隱蔽せられ經營上の幾多 ることが第一義である。 觀察は原價の認識と其の構成を明らかならしめる。原價種目の物量を正當に認識し、これを個々の生産物に配分す の映陷が注意せられずに終るからである」と。—Kalkulation und Preispolitik. S 22.—經營評價の基礎をなすも は られる。何となれば一生産物の生産に用ひられたる總での財・利用・用役それが原價なるが故である。からる物量的 から容易に察知することが出來やう。卽ち「〈原價〉の明瞭なる概念構成は原價が物量的に考察せられたるときに得 企業に於ける消耗價値の綜合たる原償計算は物量計算を前提とする。物量計算の重要性はシュミットの次の言葉 次いで斯く確定せられたる物量について原價評價が行はれる。原價認識を單に價値にかか

原單位計算制度に開する若干の考察

四七(八二七)